

沖繩は、この地球上で、最も海洋環境に恵まれた地域の一つである。美しい海は、豊かな文化を育み、多くの観光客を引き付けてきた。その沖繩の海に今、世界の科学者の注目が集まっている。

沖繩科学技術研究基盤整備機構 (OIST) で

は、大学院大学の開学に向けた取り組みの一環として先月、海洋環境研究に関する国際ワークショップを開催した。本稿では、研究対象としての沖繩の海の魅力を紹介するとともに、その成果を報告したい。



御手洗 哲司

## 論壇

沖繩の海の最大の特徴は、世界有数の規模を誇るサンゴ礁の存在だ。そこは生物の宝庫であり、研究テーマにあふれない。サンゴの白化現象など、気候変動の影響も現れや

たな発見が創薬などの産業につながることも期待される。これほど研究テーマにあふれる海は、世界でも例を見ない。こうした優位性をどう生か

### 世界的拠点目指すOIST

## 可能性に満ちた沖繩の海

すい。沖繩の海洋環境を的確に把握・分析することにより、環境保全につながる予測も可能となる。

さらに、周辺の深海には、海底から熱水が吹き出す噴水孔がいくつも存在し、新種の微生物も発見されている。新

すべきか。ワークショップでは、世界トップクラスの研究者から、海洋環境の観測に関する最先端の報告を受け、今後の可能性を話し合った。

参加者からは、サンゴ礁を眼前に臨むOISTの立地は世界でも珍しく、そのような環境研究プロジェクトの推

地の利と、OISTが推進する異分野の融合や手厚い支援体制が相まって、世界をリードする独創的な研究が生まれることを期待する意見が多かった。また、スタンフォード大学など、米・仏・豪の世界的な大学との間で、共同研究を進める計画も動きだした。他方、海洋研究インフラの整備や研究者のさらなる採用など、今後の課題も指摘された。国際的なネットワークを築きつつ、課題の解決に努めていくことが重要だ。

沖繩は、海洋環境研究の世界的拠点に発展する可能性に満ちている。優れた科学者が集い、最先端の研究が進めば、その豊かな環境を守ることにもつながる。県民の皆さま、OIST研究者、40歳)

進が盛り込まれた。最先端機器の導入が進めば、世界からの注目もさらに高まるだろう。また、県内では、琉球大学や海洋博覧会記念公園管理財団などで、海洋生物に関する優れた研究が行われてきた。これらの機関との一層の連携により、相乗効果を上げていきたい。